

Horomui,  
Hokkaido

ト  
ト

積丹半島の幌武意。

長くダイバーをやっている人の耳には

「トドがいっぱい見られる海らしい」と

噂が入ってくるものの、

情報も少なく、謎のベールに覆われていた。

そこで、オーシャナ取材班は、

実態を確かめるべく、

海獣をライフワークに撮り続けている

越智カメラマンと共に北の大海へ向かった。



## 北海道 積丹半島・幌武意

PART#01 かいじゅうのまを海へ

ねえ、  
一緒に  
遊ぼうよ♪



## トドに逢える海は 意外なほど近かった。

“海獣に逢う”という非日常感から、てっきり北海道の奥地にあると思っていたが、札幌にあるダイビングショップ「Avii wave (アビイウェーブ)」にピックアップされ、小樽を經由2時間ちょっと。トドに逢える海、積丹半島・幌武意に到着。降りしきる雪の中、トドの海を目の前にしてやっと湧いてきた現実感。

北の海でトドに逢う。

僕と同じように、世界の海で海獣類を撮り続けている越智カメラマンにしても、やはりどこか非日常だったらしい。

「僕は、世界中で海獣類を撮影しているといっても、今まではどちらかといえば温帯から熱帯海域で撮影可能な生物がほとんど。なので、雪が降りしきる北海道の海でトドに遭遇して撮影するって事が、彼らに会うまで、正直ピンと来ませんでした」

非日常感と半信半疑の気持ちを抱えて潜った積丹半島。すべてはいとも簡単に目の前で起きた現実だった。

気温は氷点下。西村さんが「マイナス2度までは暖かい」と言っていて「何を言っているんだらう……」と思ったが、マイナス9度を経験してその意味を知る(笑)。マイナス2度までは手袋がなくてもイケる



札幌で出迎えてくれたのは、積丹半島を中心に北海道を広く潜る「アビイウェーブ」の西村さん(中)と大川さん(右)。早速、北海道らしい帽子をかぶってみたが(左)、その正体は3P後に……

# 序章 トドに逢いたくて……。 積丹半島は意外なほど近かった

## オール or ナッシングのトド・ダイブ。 マッカ岬の先にある“The Day”

現地で出迎えてくれたのは、北海道・トドダイビングのパイオニアである「ゼムハウス」の藤田尚夫さん。「アビイウェーブ」オーナーの西村伸人さんの師匠でもあり、二人のオペレーションとガイドのコンビネーションでまずはトド・ウォッチングから。

トドがエサとなるニシンやホッケを求めて積丹半島にやってくるのは冬のシーズン。「アビイウェーブ」がツアーを開催しているのは12～2月で、取材班が訪れたのも2月。最も高確率でトドに逢えるコアシーズンとのこと。

遭遇率が気になるところだが、正直なところ、大物につきものの、“All or Nothing”のギャンブル・ダイビング。“The day”となるかどうかは神威岬の神のみぞ知る。

エサを追いかけて泳いでくるトドのコース上で待つというスタイルで、シーズンとして“線”で潜れば登場率は100%に近くても、

年に一度の“点”で潜る場合、まさにその日がThe dayとなる幸運な人もいれば、毎年通っても、空振り……なんて人も。

粉雪舞い散る中、マッカ岬の西側に位置する港を出港し、岬を東側へ回り込んだ海域が最もトドの好む場所。東側へ回り込めさえすれば遭える確率は7～8割だが、海況が悪いと岬を越えることも難しい。なので、まずは岬越えが勝負のポイントとなる。

取材班も、ボートで5分ほどのマッカ岬の先端に近づいたところで、「風向きが北東に変わってしまったので、今日は岬の西側だな」と藤田さん。初日は1本しか潜らなかったこともあり、空振りに終わったのでした。

しかし、今思えば、この空振りも本編を際立たせるための序章に過ぎず、衝撃のクライマックスは、翌日いきなり訪れるのでした……。



船上からは泳ぐトドの群れや岩場で休憩するトドが見られる。ちなみに、オットセイは上陸しない

## トド! 北海道 積丹半島・幌武意 PART#01 / かいじゅうのまき海へ

©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

2013 Summer [Hokkaido Part 1]

Information Link  
<http://www.aviiwave.com>

関連情報HPへ

好奇心旺盛で、警戒しつつも自らダイバーに寄ってくる。上目遣いの瞳がキュート



# 出たこ

The Day

## Column#01

### 準絶滅危惧種のトド



ダイバーにとっては可愛い存在でも、害獣としての駆除も盛んに行なわれ、今や世界で10万頭もないトド。アシカやアザラシなど、**鰭脚類**と呼ばれる仲間の中でも絶滅が危ぶまれていて、今や準絶滅危惧種。

あまり可愛い・可愛くないと情動的に考えることは危険ですが、保全という意味でも、ダイバーを幸せにしてくれるという意味でも、トドの本来の姿を知り、伝え、観光資源としての価値を高めることがダイバーにできることなのかもしれない。

## Column#02

### 海獣カメラマン 越智隆治の撮影後記



海獣類ってやっぱり魚よりも感情があって、海中で出会うとそれだけで、なんだか意思の疎通ができそうな気持ちになる。優しい気持ちになれるんだよね。

もちろん「危険なのかもしれない」という警戒心も必要だけど、出会えると、なんだかやっぱり顔がにやけてしまう。だから、海獣類撮影にハマってるのかもしれない。今回の取材のおかげで、寒冷地の海獣類にも会いに行ききっかけがつかめたかなと思うので、今後はもっと広範囲に海獣類を求め

て取材に行きたい。それ以前に、また何度か積丹の海を訪れて、時間をかけてあのトドたちをしっかり撮影してみたいかな。

ボートの誘導と水中の位置取りの連携で、11頭ものトドの群れと遭遇



# 11頭!

## クライマックスは、何の前触れもなく訪れた

トド・ダイビング2日目は、青空高く、水面穏やかな絶好のコンディション。港から5分、マッカ岬を回り込み、トドの通り道となる湾へ早速エントリー。ゴロタを下り、水深15m付近の砂地の際でトド待ちしてみても、自分に大物運がないこともあり、まだどこか現実感がない。

待つこと5分。早くも「本当に出るのだろうか……」と期待を不安が追い越しそうになり始めてきたその瞬間。

出た!

なんの前触れもなく登場した体長2mは

あろうかというトドは、こちらを遠巻きに見つめながら徐々に距離を詰めはじめ、最後はカメラを覗き込むぐらい接近したかと思うと、プイッと踵を返して去っていたのです。

これを皮切りに、2頭、3頭、3頭、1頭と次々とトドが姿を現し、その黒目がちでクリンとした瞳で、上目づかいにこちらを見つめては、去っていくという繰り返し。

いきなり訪れたクライマックス。と思いきや、2本目はさらに圧巻。

今度はドリフトでトドの通り道を流していると、砂地の奥からトド、トド、トド。なん

と11頭の群れが、編隊を組んで目の前に登場! 猛スピードでこちらへやって来て、目の前でピタッと止まり、こちらの様子をうかがっているの、こちらがぐるぐる回転してみると、トドもマネしてくるくる。

「アザラシやオットセイ、イルカ、ミンククジラ、シャチといろいろな海獣を見るけど、トドが一番友好的で知能も高い」と言われるように、好奇心旺盛で人間の真似

をするほどの知性を持つトド。分類学上、犬の仲間とされるのも納得。

そんなトドの群れを見て、越智カメラマンはオーストラリアのシーライオンを重ね、優しい気持ちになって顔がにやけていた様子。「初めて海中で姿を見せたトドたちの、僕らに対して好奇心を寄せる滑稽な動きは、

毎年のようにオーストラリアのパスに撮影に行くオーストラリアシーライオンとそっくりでした。(あー、オーストラリア

シーライオンとそっくりだ〜、ゴールデンリトバ〜みたいだ〜)。遭遇した直後には、そんな事を思いながら、冷たさも忘れて、つつい顔がにやけてしまいました」

結局、この日は3本潜って3本ともトドと遭遇。まさにこの日が取材班のThe dayとなったのです。

# トド! 北海道 積丹半島・幌武意 PART#01 / かいじゅうのまき海へ

ピンとした姿勢で、滑るよ  
うに旋回するその姿はま  
るで海のワルツ



# 円舞

Shall We Dance?

ねえ、  
一緒に  
踊ろうよ！

**トド!** 北海道 しゃこたん 積丹半島・ほろむい 幌武意 **PART#01** / かいじゅうのまを海へ

日本海といえばミスダコ。  
手を広げると、優に人間  
を包み込んでしまうほど  
大きさのもの!



# 愉

Funny

# 快

## 微笑むダンゴウオのオバケ“ゴッコ”の哀愁

夏はウエットスーツで潜れるほど水温の上がる北海道だが、今回潜ったトドの海の水は5度。しっかり保温していたので陸上ほど寒さは感じなかったが、海の中は静寂に包まれ、ピンと張りつめた雰囲気漂っている。

そんな緊張感とは対照的な北の愉快的仲間たち。本来、水面を見上げつつトドを探さなければいけないのだが、温帯や熱帯と異なる北の生き物たちに、どうしても目が釘付けになってしまう。中でも目を引くのが、“ゴッコ”の愛称で親しまれているホテイウオ。“微笑むダンゴウオのオバケ”とでもいったファニーフェイスだが、産卵の後は弱ってあらゆる生物たちの栄養となる運命。

そこかしこに、白濁して弱ったゴッコがいて、ときにヒトデに覆いつくされ、ときにトドのエサとなり、さらに陸上では人間様の珍味となり……。キュートなゴッコの微笑みの裏に潜むのは、フランケンシュタインのような哀愁か。いずれにしても、存在感ナンバー1の北のアイドルなのでした。

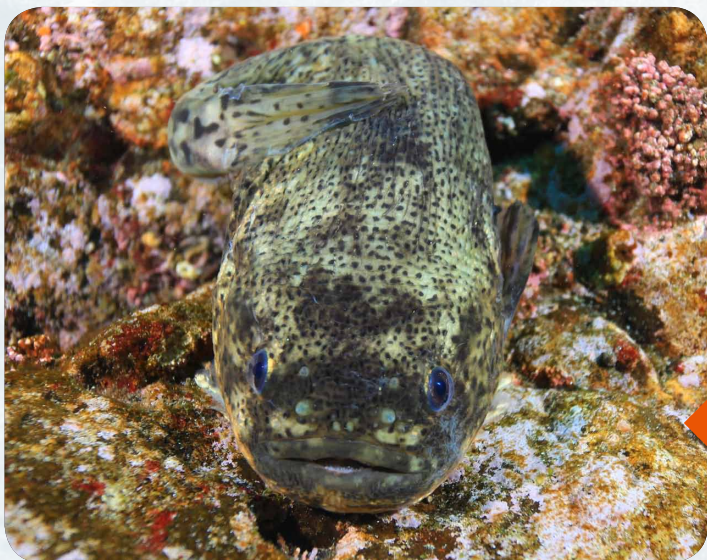


今晚のおかずは、目の前の海で獲れたばかりのタコをしゃぶしゃぶで



北海道といえばグルメ。獲れたての海の幸を使った藤田さんの料理は絶品!

今日の晩ご飯は獲れたてのタコ!



北のアイドル、ゴッコことホテイウオ(3P前の帽子の正体)。手のひらほどの大きさだが、大きいものはバレーボール大にもなるんだとか!?



ヒトデやウニ、貝のエサとなるゴッコ……

## トド! 北海道 積丹半島・幌武意 PART#01 / かいじゅうのさき海へ

伊豆に行くより近い!?  
トドの海まで  
2時間ちょっと

# 思ったより近い!? 北海道の旅 サッポロを拠点にダイビングを楽しむ



Stay

# 札幌

トドと逢える積丹半島までは、札幌から2時間ちょっと。関東ダイバーにとっての伊豆半島、関西ダイバーにとっての紀伊半島と同じ、あるいはそれ以上に近い存在なのだ。

なので、ダイビングだけでなく、北海道の旅も楽しみたい人は、札幌を拠点にグルメや観光を楽しみつつ、ぶらりとダイビングを楽しむスタイルがおススメ。

ダイビングは現地サービスを利用する手もあるが、ほとんど料金も変わらない札幌のダイビングショップを利用するのもおススメ。何より、送迎があるのがありがたい。

例えば、札幌に到着した日は札幌のホテルに一泊し、ススキノ界隈で北海道グルメを堪能。翌朝から今回話になった「アビウエーブ」のような札幌のダイビングショップにピックアップしてもらい積丹半島でトドダイビング。ダイビング後は、小樽や札幌を拠点に観光するのがおススメだ。

日帰りでもいいし、じっくりダイビングをしたい場合は、港から数十分に位置する美国町や、札幌と積丹半島の中間にある小樽にステイするのもあり。

札幌と言えば、北海道最大の歓楽街ススキノ。北海道グルメのラインナップも豊富。写真は、「ストップ!」の掛け声をかけるまでイクラを盛り続けるでくれる、「はちぎょう」名物「つっこ飯」



イクラが  
こぼれる～!



## 札幌を拠点に潜るなら……

今回、取材班を完全サポートしてくれたのは、地下鉄から1分という抜群のアクセスを誇る「アビウエーブ」。

若き代表・西村伸人さんは北海道の海ならお任せの道産子ガイド。特にトドの海で修業を積んだ経験を活かし毎年トドツアーを開催している。その他、きめ細かいケアに定評のある（ケーキ作りと料理が得意♪）矢野達也さん、撮影のことならお任せの大川拓哉さんなど、どんなダイビングスタイル、講習にも対応できる布陣で完全サポート。

積丹半島を中心に潜っているが、今回ご紹介したトド・ダイビング、北海道マガジンPART2でも紹介する知床の流水ダイビング、淡水ダイビングの支笏湖など、札幌拠点を北海道を広く潜っている。

北海道ダイバーはもちろん、一度北海道を潜ってみたいと思っている北海道以外のダイバーも、札幌の観光やグルメも楽しみたいならおススメ。海へのアクセスを考えれば料金的にもリーズナブルだし、何より初めての海へ自力で行くより、

札幌からピックアップされ、ツアー全体をスケジューリングしてもらえらる快適さはありがたい。

アビウエーブ  
**Avii wave**  
札幌市白石区南郷通7丁目北5-26  
Tel.011-788-9832  
support@aviwave.com

## 夏の北海道を潜る!

### オーシャナ×アビウエーブスペシャルプラン

北海道もいよいよウエットスーツで潜れる夏の到来! トド・ダイビングは来シーズンのお楽しみとして、目の前に迫った夏の北海道を潜って遊ぶスペシャルプランを、アビウエーブがオーシャナ読者のために送るラインナップ。送迎もある嬉しいプランなので、札幌を楽しみたい人も、空港から直接潜りにいきたい人も、この機会に北海道の海を欲張ろう!

1 日本一きれいな湖で  
ダイビング  
支笏湖



日本一きれいな水といわれる不凍湖「支笏湖」。透明度抜群の水で、水草や倒木といった、湖ならではのシーンを楽しめる。ダイビング後は温泉やジンギスカンも楽しめる!

※詳細はこちらをクリック  
[http://oceana.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/06/hokkaido\\_plan\\_1.pdf](http://oceana.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/06/hokkaido_plan_1.pdf)

2 ウニが  
おいしい季節!  
積丹半島



水温が20度を超えるベストシーズンの夏の積丹半島。札幌で遊びながら、日帰りで潜れる嬉しいプラン。ドライスーツを着たことのない人に向けたレンタルや講習も開催! そして、なんといっても夏の積丹半島といえば、ウニで有名。アフターダイビングでこぼれるようなウニ井なんて最高かも(よだれ、よだれ)。

※詳細はこちらをクリック  
[http://oceana.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/06/hokkaido\\_plan\\_2.pdf](http://oceana.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/06/hokkaido_plan_2.pdf)

3 トド&流水&グルメ  
北海道  
いいとこ取りツアー



2014年2月、取材班がリサーチしたトドと知床の海を中心に、北海道のグルメ、流水を見ながらの温泉、観光スポットまで、一挙に楽しんでもらおうと欲張りなツアーを企画しました。トドだけ、流水とクリオネだけの途中参加も可能なので、この機会に、ダイバー目線で北海道のいいとこ取りしましょう!

※詳細はこちらをクリック  
[http://oceana.ne.jp/original\\_tour/hokkaido\\_diving](http://oceana.ne.jp/original_tour/hokkaido_diving)

## トド! 北海道 積丹半島・幌武意 PART#01 かいじゅうのまき海へ

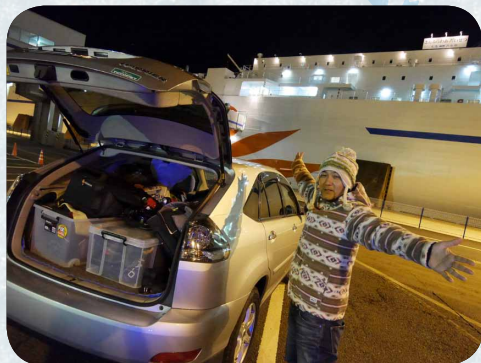


©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

2013 Summer [Hokkaido Part 1]

Information Link  
<http://www.aviwave.com>

関連情報HPへ



ダイビング器材や撮影機材など、ダイビングツアーは何かと荷物が多いので、マイカーで行けるのは大きなメリット。帰りは荷物もたっぷり持ち込める



レストラン

船旅のススメ  
ダイビング器材を積んで  
そのまま北海道へ!

# 舟台 旅

Trip of the ship



選べる客室!



(上) 海を一望しながら  
浸かるお風呂は最高。  
サウナも完備  
(中) 娯楽施設充実  
の船内にはマリニシア  
ターも!  
(下) 吹き抜けのロビー  
は開放感たっぷり

©商船三井フェリー <http://www.sunflower.co.jp>

## 取材班が 船旅を選んだ理由 近場感覚で北の海へ

今回、取材班が北海道へ行くにあたり、まず悩んだのがアクセス。当然、飛行機でのアクセスが真っ先に頭に浮かんだものの、なかなか条件が厳しい……。というのも、やはり慣れない海では自分の器材やドライスーツを使いたいし、何より撮影機材が多く、飛行機だと明らかにとんでもない重量オーバー……。さらに、空港までの移動を考えて考え込んでしまった時にふと浮かんだのがカーフェリー。調べてみると、大洗から苫小牧までの商船三井フェリーが定

期便を運航しているのを見つけ、内容を見るとまさに取材班にぴったり!

マイカーであれば、器材をそのまま持っていけるし、撮影機材もなんのその。

実際、大洗港まで東京から2時間弱。あとは船旅を楽しみ、苫小牧から札幌まで1時間弱。取材班にとっては、伊豆に行くような手軽さで、とても快適なアクセス手段。のんびり船旅を楽しめるおまけもついた。

## 料金、時間、快適度…… 空と海、 ファンダイバーにとって よいのはどっち?

取材班にとって快適だった船旅だが、遊びに行くダイバーにとってはどうだろうか? 飛行機を利用して北海道へ行く人は多くいるので、今回は主に船旅をクローズアップして紹介する。

まず、気になる料金に関しては、トドのシーズン、最も安い客室プランを利用してマイカー1台4人で行った場合、1人頭は往

復で2万5000円ほど。格安航空券から通常チケットまでいろいろあるが、付加価値を考えれば、エアと比べてもリーズナブルな料金といえるだろう。あとは、空港なら羽田まで、港なら大洗までにかかる料金と居住との兼ね合いとなるが、ダイバーの荷物の持ち運びを考えると、フェリーはおススメ。

時間だけ考えると、1泊することになるフェリーの方が当然時間はかかるが、これはフェリーの利用をただの“アクセス手段”と考えるか“船旅”で考えるかで違ってくる。

ぜひ、船旅をおススメしたい理由は、そ

の施設の充実ぶり。船旅には欠かせないレストランやくつろぎのラウンジのほか、海を一望しながら入れる展望浴場やゲームセンター、マリニシアターまであり、単にアクセスの域を出て、これも立派な一泊の旅。ダイビングツアー、プラスαが楽しめる。

さらに、飛行機とは違って“プライベート空間”であるマイカーで、仲間同士ワイワイと移動できるのもカーフェリーのよいところ。ダイビングを楽しんだら、マイカーで北海道の観光も欲張りしたい。



大洗港

トド! 北海道 積丹半島・幌武意 PART#01 / かいじゅうのまき海へ